

(10) 食品安全とリスクに関するセミナーの開催

＝本報告は詳細報告の要約である＝

以下の公開セミナーを開催し、討論を行った。

(1) 公開シンポジウム「自治体の食品安全コミュニケーション強化に向けて」

～「自治体の働きが大切—食品安全のリスクコミュニケーション」

日時：2007年8月30日

場所：東京木材会館

参加者：20名（11都県、食品安全委員会、農林水産省、未来工学研究所、徳島大学）

開催趣旨：2007年1月に実施した自治体での食品安全リスクコミュニケーションの取り組みと課題についてのメールアンケート結果を披露し、食品安全委員会ほかによるリスクコミュニケーションの経験や、主催者が進める「食品安全の効果的なリスクコミュニケーションのあり方に関する研究」の成果も参考に今後の方向性を検討し連携による相互啓発を図り国への要望なども検討する。

検討項目

- 1 連携のあり方およびネットワークの展開方向：組織的、媒体による、人ベース
- 2 リスクコミュニケーションの能力開発のあり方と研鑽の方向：
- 3 食品安全リスクコミュニケーションに関する質問、意見の集積と活用方向
- 4 各自治体のパフォーマンス（経験）の蓄積と相互啓発の方向

討議内容

食品安全と食育と一緒にした事業を行い4年の食の安全推進計画を作成し食能検定事業を実施し県の食文化、食育、食品衛生に関する問題とし検定結果上位十名の人をリスクコミュニケーションにキーマンに任命している。食の安全県民ネットワークの担当し県と民間のネットワークとを進めている。全てを行政が担えないので食の安全安心地域リーダーに消費者や事業者になっていただき県民運動を進めている。農林部局と衛生部局との連携は悪いと言われてきたが、企画室ができてからは二つの部局の溝は解消されつつある。

(2) 「食品安全のリスクコミュニケーションのあり方を考える公開シンポジウム」

～行政の役割と消費者の役割～

日時：9月28日 13:00～16:30

場所：スクワール麹町 3階会議室「華」

参加者：80名

プログラム

【主催者挨拶と研究成果の紹介から】

「リスクコミュニケーションのこれからを考える」 関澤 純

【基調講演】

「食品安全ガバナンスにおける消費者と他の利害関係者との関与について」

(逐次通訳付き) ワーゲニンゲン大学 Lynn Frewer 教授

【パネルディスカッション】

「食品のリスクコミュニケーションにおける消費者の役割と行政の役割」

司会： 徳島大学 教授 関澤純 氏

パネリスト：

内閣府食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官 小平 均氏

全国消費者団体連絡会 事務局長 神田敏子氏

慶應義塾大学商学部 准教授 吉川肇子氏

開催趣旨：食品安全のリスクコミュニケーションの取組みが各方面で進められている。しかしまだ多くの課題が残されている。この分野をリードする研究者のワーゲニンゲン大学消費者行動研究所教授 Lynn Frewer 氏から欧州での今日の到達点と課題についてご講演いただき更にパネルディスカッションにおいて重要なパートナーである消費者と行政が食品安全のリスクコミュニケーションにおいてどのような役割を果たせば良いか、現時点の問題と今後の展望について参加者と共に探った。行政が効果的なリスクコミュニケーションを実施していく上での課題を行政、研究者、消費者団体、民間企業など様々な立場の参加者が話し合う場を創出することを目的とした。主催者挨拶と研究成果の紹介から

「リスクコミュニケーションのこれからを考える」 関澤 純

概要 食品安全のさまざまな場合の関係者（ステークホルダー）のうち、行政と消費者を中心にそれぞれ何をなすべき、またできるか、食品安全における役割と関与のあり方を探るため共通認識として「効果的な食品安全のリスクコミュニケーションのあり方に関する研究：研究代表 関澤純」の研究成果を踏まえリスクコミュニケーション改善への提言を行う。

論点：

- ・食品安全のリスクの性質によるコミュニケーションの目的別対応の必要性
- ・リスクコミュニケーション活動事例：魚介類の微量メチル水銀摂取の事例
米国・カナダ産牛肉輸入の BSE 事例
- ・魚介類の微量メチル水銀摂取の事例における Q&A の問題
- ・一般市民対象の食品安全アンケート調査結果
- ・カナダ保健省のリスクコミュニケーションフレーム（2006 年）からの関係者の関与のあり方について
- ・リスクコミュニケーション改善への提言

基調講演

「食品安全ガバナンスにおける消費者と他の利害関係者との関与について」

ワーゲニンゲン大学 Lynn Frewer 教授

論点：・リスクとベネフィット

- ・パブリックエンゲージメント
- ・効果的なリスクコミュにケーションに消費者はどのように反応するのか
- ・リスクガバナンスについて、特に消費者保護の観点からの最適化を政策の仕組みにどのように組み込むべきか

(3) 日本リスク研究学会 2007 年度第 20 回研究発表会での公開シンポジウム

「食品安全の未来を考えよう」 コーディネーター 関澤 純

期日と時間：2007 年 11 月 17 日 午後 2 時 40 分～4 時

開催場所： 徳島大学工学部共通講義棟大会議室

プログラム

報告と討論（パネルディスカッション）

「食の安全・安心施策の推進に関する取組みと課題」 川西貞之（徳島県危機管理局）

「徳島の地鶏「阿波尾鶏」の安全性の取り組みと食品の安全性確保の問題点」

藤木 優（オンダン農業協同組合）

「もっと食べる大切を」 阿部和代（徳島県消費生活協同組合連合会）

「食品安全のためのリスク分析」 小平均（内閣府食品安全委員会）

「地域におけるフォードチェーンを通じた食品の安全管理」

新山陽子（京都大学農学研究科）

「食品安全のために自らができることは何か？事業者、消費者、科学者として」

春日文字子（国立医薬品食品衛生研究所）

概要：食品安全をめぐる行政の連携不徹底、一部業者による偽装食品の製造や販売、輸入食品の安全性の保証などさまざまな問題が続出した。他方消費者と生産者や国・地方の行政担当者を含む関係者が協力して問題解決に取り組む動きも進みつつある。現状を分析し地域レベルでの取り組みから食品供給をめぐる国際的な枠組や状況を見据え今後を展望した。